



# 15 火おこし

青森県立種差少年自然の家



## ○活動の概要○

「マイギリ式」の道具を使って仲間で協力して火をおこしたり、ファイヤースターターを使い火を使う活動に生かす火をおこしたりします。

### 1 ねらい

- ・「マイギリ式」…昔ながらの方法で火種を作り昔の人の知恵や火の大切さを体験させます。
  - ・ファイヤースターター…ファイヤースターターという道具を使って、炊事などに生かす火おこしの仕方を体験させます。
- (小学校 社会・防災教育 中学校 社会・技術・防災教育)

### 2 場所・人数・期間・時間

- ① **場所・人数** プレーホール、大ホールは 60 人以内（1 グループ 2～6 人程度）  
 玄関ホール（20 人：他団体の出入りが少ない場合） キャンプ場、炊事場
- ② **期間** 通年
- ③ **時間** マイギリ式… 1～2 時間 ファイヤースターター… 30 分～1 時間

### 3 職員の支援について

やり方説明や安全確保のために、職員が活動支援に入ることができます。

### 4 準備物

区 分	マイギリ式		ファイヤースターター	
	準 備 物	備 考	準 備 物	備 考
団 体	特になし		・麻紐、ろうそくなど	持参してください
個 人	・軍手 ・タオル		軍手	
自然の家	・「マイギリ式」火おこし用具一式	・10セット	・ファイヤースターター火おこし用具一式 (ファイヤースターター・作業板、小刀)	・20セット
斡旋可能	・「マイギリ式」火おこしセット（麻ひも8本、心棒1本）	・1セット60円 (2～6人)		

### 5 引率者の役割分担

係 名	役 割
代表責任者	・全体の掌握、指揮、連絡にあたる。
救護係	・緊急時の救護、搬送にあたる。

### 6 活動の流れ

「マイギリ式」火おこし

- ① 活動説明（代表責任者）
- ② ヒキリ板の加工（省略できます）
- ③ 麻ひもをほどこ
- ④ 火種をつくる
- ⑤ 火種を麻ひもにつつまみ、炎をつける
- ⑥ まとめ・片づけ

「ファイヤースターター」の火おこし

- ① 活動説明（代表責任者）
- ② 火口（ほくち）の加工
- ③ ファイヤースターターで火口に火をつける
- ④ 焚きつけに火を移す
- ⑤ まとめ・片づけ

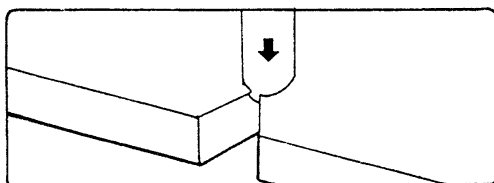
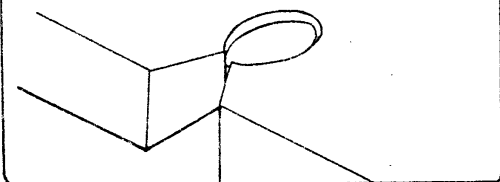
## 《資料 1》 「マイギリ式」火おこし

### ①ヒキリ板の加工 (※参考図)

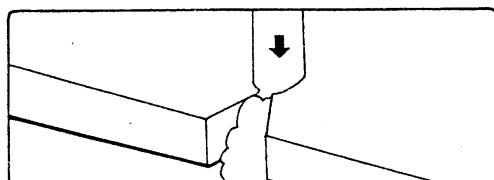
火種を作るとき、ヒキリウスから黒い粉があふれ出るように、ヒキリ板に V 字の切り込みをほんの少し入れ、深さ 2~3mm のヒキリウスを彫刻刀などで作る。



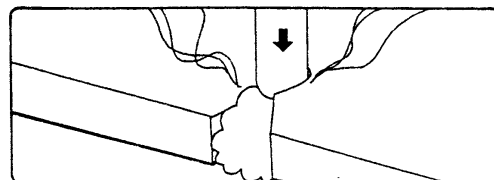
V 字の先端が大きくあいていると、ヒキリ棒を回転させた時、ヒキリウスからヒキリ棒が外れやすくなり、小さすぎると、回転させた時に出る黒い粉が、出口を失うので注意しよう。



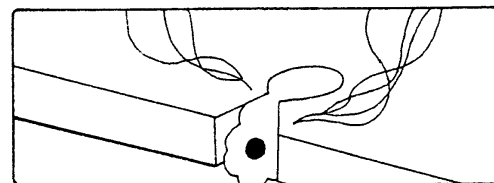
1) ゆっくりまわしてゆく。



2) だんだん力を入れてゆくと、茶色の粉が出て、こげるニオイがしてくる。



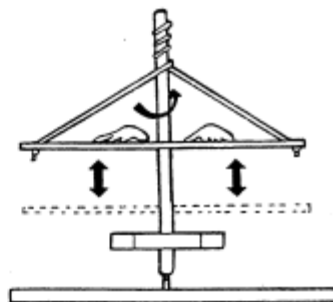
3) 回転スピードをさらにあげると、黒い粉がわきでるように出てくる。



4) 黒い粉の中に火種ができる。  
※早ければ30秒~1分くらいで火種ができる。

### ②火種をつくる

横木ハンドルを両手で上下に動かすと、ヒモがヒキリ棒に巻き付き回転する。しかし、加える力と回転する速さが増していかないと、ヒキリウスからヒキリ棒が外れたり回転が止まったりする。



#### <回転がとまってしまったら>

ヒキリウスからヒキリぼうがはずれると、回転にムラができ、とまってしまう。すると発火材が冷えて固くなり、発火材がヒキリウスにしめつけられ、再度回転できなくなる。発火材のこげた所をけずり、新しいヒキリウスでやりなおそう。

#### <火種が出来ないとき>

- ・3分以上回転させても火種が出ないときは、他のヒキリウスでやってみる。
- ・重し板は、しっかりまっすぐに接着固定されているか。
- ・ヒキリ棒の角穴に、まっすぐ発火材が入っているか。
- ・ヒキリ板の加工に問題はないか。
- ・回転させる時に、加える力と、回転する速さが増しているか。

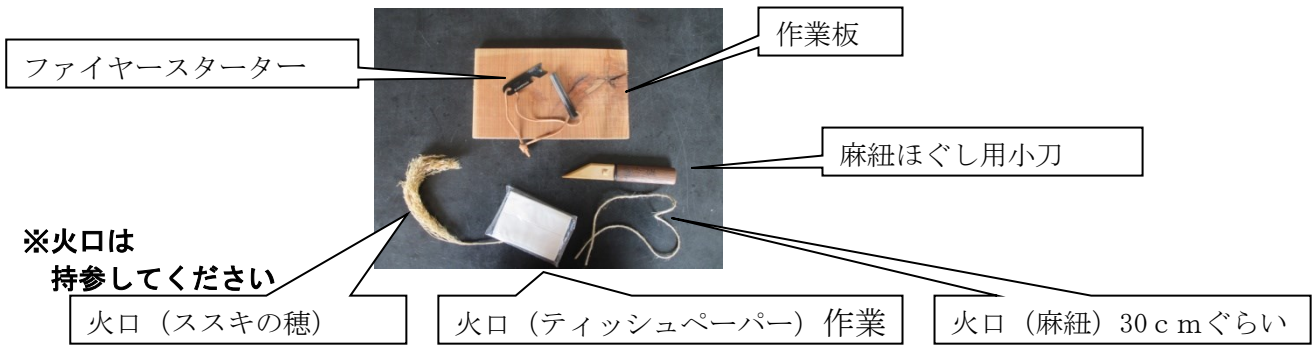
### ③火種から炎にする

火種が出たら、まず火種を大きくしよう。

火種が出来たら、まず、火種を大きくしよう。あらかじめ麻紐をほぐしておく。(短めにカットすると、ほぐしやすい) ほぐしたひとつかみの麻紐に、大きくした火種をくるみ、息を強く吹きかける。(麻紐はたくさんほぐしておこう)

- ・刃物や火を扱うので、安全確保に気を配ってください。
- ・ほとんどの場合、火種をつくるまでに至りませんが、火がつかないことは失敗ではありません。このことを通じて火の大切さや先人の知恵や苦勞について考えさせる機会としてください。
- ・事前にも練習することをおすすめします。

《資料 2》 ファイヤーstarterの火おこし



(1) 火口 (ほくち) の加工 (麻紐、ティッシュペーパー、ススキの穂 など)

- ・麻紐は、手でほぐしたり小刀の背を使ってほぐしたりする。
- ・ティッシュペーパーは、細長く裂く。
- ・ススキは、良く乾かしたものを準備する。

※火口としては、このほかにも樹木の皮、のこくずなどがある。

(2) ファイヤーstarterで火口(ほくち)に火をつける。



作業板の上に火口 (ほくち) をのせ、ファイヤーstarterの棒「ロッド」とロッドを削る「ストライカー」をすりあわせて、マグネシウムの粉をけずり落とす。

ファイヤーstarterのロッドとストライカーを強くすりあわせて、火花を発火させ、火口 (ほくち) に火をつける。



焚きつけ

- ・枯れたスギの葉
- ・細い枝
- ・フェザースティック など

(3) 焚きつけに火を移し、たき火を炊事などに活用する。

火口 (ほくち) についた火で、かまどやコンロで枯れたスギの葉や細い薪などの焚きつけを燃やし、そのたき火を炊事や焼板クラフトなどに活用する。ティッシュペーパーなどで作ったこよりに火を移し、ろうそくなどに移して利用することもできる。



(4) 片付け ・燃えがらは、水の入ったバケツなどに入れ確実に消火する。

- ・作業板、ファイヤーstarter、小刀、火口を片付ける。

- ・刃物や火を扱うので、安全確保に気を配ってください。
- ・炊事、せんべい焼き、焼板クラフトなどの活動に発展させることができます。
- ・火口 (ほくち) やろうそくなどは、持参してください。